

令和7年度 全国学力学習状況調査の結果について

令和7年8月29日
京都市立紫明小学校
校長 石田 淳

今年度、4月17日に本校6年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果をお知らせします。本調査は、国語、算数、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されました。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果（国語・算数・理科）】

国語科、算数科・理科の3教科とも、全国ならびに京都府、京都市の平均正答率を上回る結果でした。（本校／全国（%）：国語81／66.8、算数78／58、理科76／57.1）

この結果から、学力が定着していることが分かります。また無解答も少なく、「解らない」「できない」と諦めず、自分なりに答えを導きだそうとしている様子が見られます。

	高正答率（本校／全国（%））	低正答率（本校／全国（%））
国語	<p>全体的によくできており、どの問題も全国平均を上回っています。特に、全国平均を大きく上回っていた問題は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">■学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 (93.8／72.1)■順序を考えながら内容の大体を捉える。 (100／81.6)■自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える。 (84.4／71.8)■書く内容の中心を明確にし、段落相互の関係に注意して文章構成を考える。 (81.3／65.5)	<p>全国平均よりも上回ってはいますが、全国平均も本校の正答率も低かった問題が以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">□目的や意図に応じて日常生活の中から話題を集め、分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討する。 (59.4／53.3)□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。 (59.4／40.8)
<p>【課題】</p> <p>これらのことから、意図を明確にして必要な情報を見つけることや、目的に応じて前後関係を把握し、文章に結び付けることにおいて課題が見られました。また、目的や条件に合わせて自分の考えを記述する最後の問題では、全国平均を大きく上回っていましたが、約9%の児童が無解答でした。このことから、時間配分や決められた条件で書くことへの課題が見られました。</p>		

算数

すべての問題で全国平均を上回る結果でした。特に、全国平均を大きく上回っていた問題は以下の通りです。

- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。 (62.5／31)
- 基本図形に分割できる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する。 (71.9／37)
- 伴って変わる2つの数量の関係を解決するために必要な数量を見出し、式や言葉を用いて求め方を記述する。 (81.3／48.7)

全国平均よりも上回ってはいますが、全国平均も本校の正答率も低かった問題が以下の通りです。

- 分数の加法について共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通するいくつ分かを、数や言葉を用いて記述する。 (43.8／23／無解答6.3)
- 数直線上で、1の目盛りに着目して分数を単位分数のいくつ分として捉える。 (56.3／35)

【課題】

これらのことから、1つめの「共通する単位分数を見出す=通分」ですが、問題が長い上に聞かれている問題は分母が違うので混乱した可能性があります。無解答の児童が約6%いたことからもそれがわかります。次の数直線の問題では全国平均を大きく上回ってはいますが、約半数の児童しか解答できていなかったことから、数の相対性（単位分数のいくつ分かで考えること）の基本的な定着が課題であると考えられます。

理科

3教科の中で本校も全国も平均正答率が低かったです。特に、国語や算数と同じく全国平均を上回る結果でした。特に、全国平均を大きく上回っていた問題は以下の通りです。

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いを、結果やまとめを基に、他の条件の結果を予想しながら選ぶ。(93.8／77.8)
- ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についている。 (96.9／70.7)
- 氷がとけてできた水が海に流れしていくことの根拠を、既習事項と関連付けて理解している。 (90.6／60.9)

全国平均よりも上回ってはいますが、全国平均も本校の正答率も低かった問題が以下の通りです。

- 身の回りの金属について、電気を通すものや磁石に引き付けられるものがあることの知識が身についている。 (28.1／10.6)
- レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見出す。 (50／29.9／無解答6.3)

【課題】

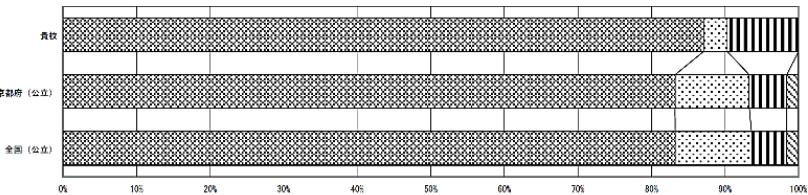
これらのことから、「電気」という目に見えないものに対して実感を伴った理解の重要性がわかります。本校では、「アルミニウム・鉄・銅」のどれかを「電気を通す・通さない」で誤解答した児童が約60%いました。次の発芽条件の問題では、気付きをもとに新たな問題を見つけるというものでした。5年生時の学習内容であるので忘れてしまっている可能性も考えられますが、「条件制御」の理解に課題があるとも考えられます。

【児童質問紙より】

(1) 朝食を毎日食べていますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	87.1	3.2	9.7	0.0							0.0	0.0
京都府（公立）	83.2	10.1	5.1	1.6							0.0	0.0
全国（公立）	83.3	10.4	4.8	1.6							0.0	0.0

□1. している □2. どちらかといえば、している □3. あまりしていない □4. 全くしていない □その他 □無回答

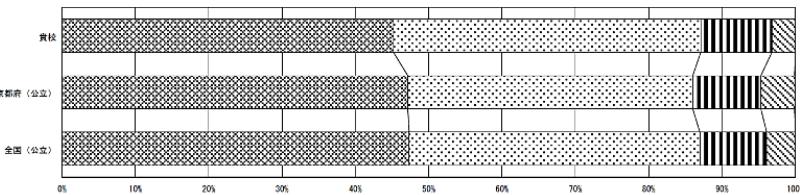


この質問ではプラス評価（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が90.3%でした。全国と比べても、朝食の大切さを理解し、取り組んでいることがわかります。同様に2問目、3問目には寝起きの時刻についての質問がありました。この項目の結果も本校は約80%の児童がプラス評価でした。「規則正しい生活」について児童の意識や実践力が高いのは、普段からご家庭でもご協力いただいている結果ではないかと思います。

(5) 自分には、よいところがあると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	45.2	41.9	9.7	3.2							0.0	0.0
京都府（公立）	47.2	38.9	9.3	4.6							0.0	0.1
全国（公立）	47.3	39.6	9.1	3.9							0.0	0.0

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



この質問ではプラス評価（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）が87.1%でした。これに関連して、次の質問「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、プラス評価が100%でした。

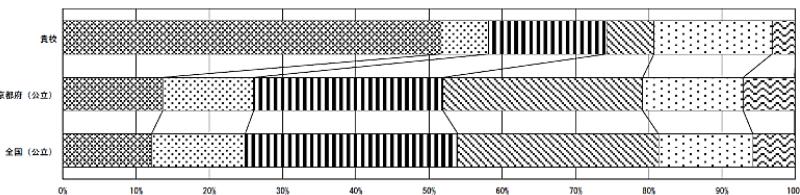
反対に、マイナス評価（どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない）は12.9%でした。

約1割の児童がマイナス評価をしている事実を受け止め、日々の学校生活や学級で具体的に良いところを褒め、自信につなげられるような活動の機会を増やしていきたいと思います。

(17) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	51.6	6.5	16.1	6.5	16.1	3.2					0.0	0.0
京都府（公立）	13.6	12.4	25.8	27.2	13.7	7.0					0.0	0.1
全国（公立）	12.1	12.8	29.1	27.4	12.9	5.7					0.0	0.1

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない □4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全くない *その他 □無回答

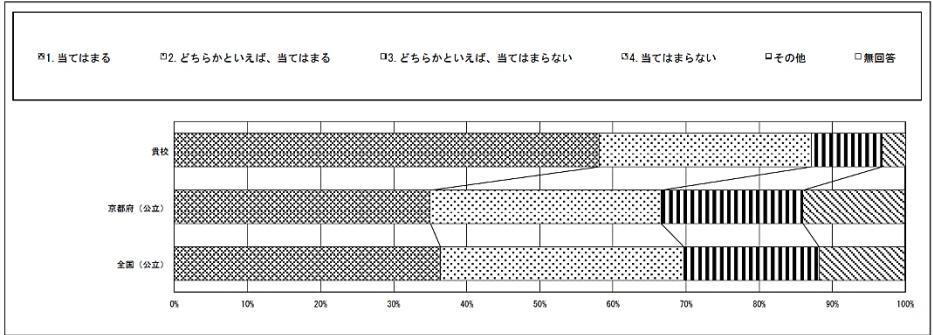


この質問では月曜～金曜の平日に1日どのくらいの時間学校外で学習しているかを答えました。

1日1～3時間学習している児童が74.2%おり、その中でも1日3時間以上している児童は、約半数の51.6%でした。この数字は、全国から見てもかなり高い割合です。児童本人が目標をもって主体的に学習に取り組んでいたり、学習に対する本人やおうちの方の意識の高さが伺えたりします。

(24) 読書は好きですか。

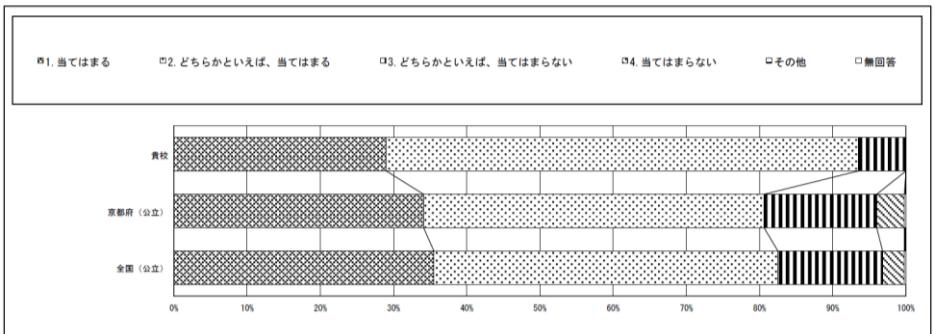
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	58.1	29.0	9.7	3.2							0.0	0.0
京都府（公立）	35.0	31.5	19.4	13.9							0.0	0.1
全国（公立）	36.4	33.3	18.5	11.7							0.0	0.1



この質問ではプラス評価(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)が87.1%でした。全国は約70%なので、本に親しんでいる児童の割合が多いことがわかります。次の質問「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」でも83.9%の児童がプラス評価をしていました。このことから、本や自然に触れる機会をご家庭でたくさんつくってくださっていることがわかります。

(37) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	29.0	64.5	6.5	0.0							0.0	0.0
京都府（公立）	34.1	46.5	15.4	3.8							0.0	0.2
全国（公立）	35.5	47.0	14.3	3.0							0.0	0.2

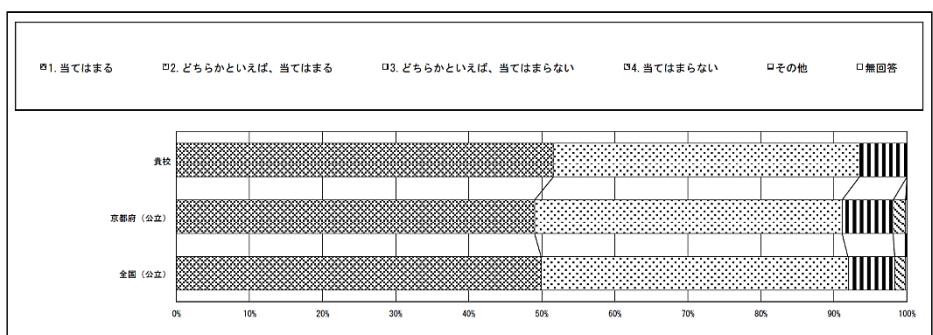


この質問ではプラス評価(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)が93.5%でした。全国と比べても、高い割合になっています。

授業で学んだことを、次の学習だけでなく自分の生活の中に返して生かそうとする往還の意識ができていると考えます。教職員も、学習が単発で終わるのではなく生活とのつながりを意識して指導していくことが大切だと改めて認識できました。

(39) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力して課題の解決に取り組んでいますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	51.6	41.9	6.5	0.0							0.0	0.0
京都府（公立）	49.0	42.1	7.0	1.7							0.0	0.2
全国（公立）	49.9	42.0	6.4	1.5							0.0	0.2



この質問ではプラス評価(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)が93.5%でした。

学年間のつながりだけではなく、たてわり活動などを通して縦のつながりも深まっていることがわかります。「人を大切にする」「協力する」といった意識の高まりは、学校だけでは育ちません。ご家庭や地域でのかかわりも大きく影響していると考えます。今後もこの意識が継続できるようにしていきたいですね。

今年度、本校では学校教育目標の中に「人を大切にする」「自分を大切にする」「めあてにむかう」「よりよく生きる」という4つの具体的な観点を掲げて取り組んでいます。今後も、学校と家庭・地域が連携し、日々の学校生活や行事等を通して子どもたちの健やかな育ちと学びの実現にご協力を願いいたします。